

いけだ

IKEDA CITY

広
報

1 月号
2022

NO.
1214

特集

いけだ駅前活性化 プロジェクト始動!

専門店街

薬 Seria JINS 阪急 OASIS 宝くじ

SUN OASIS





官民連携まちなか再生推進事業

いけだ駅前活性化プロジェクト始動！

阪急池田駅を中心に、五月山動物園からカップヌードルミュージアム 大阪池田を含む“駅周辺エリア”を、もっと居心地が良く、歩きたくなる「まちなか」にするための、いけだ駅前活性化プロジェクト。

国土交通省による「官民連携まちなか再生推進事業」を活用し、同エリアの未来ビジョンの作成と、それを実現するために地域だけで自走できる仕組みづくりに取り組んでいます。

持続可能な住民参加型のまちづくりをめざし、さまざまな企業や団体、地域住民と協力しながら取り組む同プロジェクトについてご紹介します。



官民連携によるまちづくりの展開が必要不可欠

住民参加型のまちづくりとは

これまでのまちづくりは、行政が事業計画に基づいてハード整備を行ってきました。しかし最近では、ハード面(道路、公園、建物などの整備)だけでなく、ソフト面(うるおい、やすらぎ、連帯感、地域への愛着など)を含む総合的なものとなってきています。

そこで、利害を共有する市と民間、個人や団体が連携し、「まちに居場所をつくり、収益を生み出し、それをまちに還元していく」という形のまちづくりが全国で実践されています。これを「エリアマネジメント」と呼びます。

地域に関わるあらゆる人がそれぞれの役割を發揮することで、持続可能なまちをつくり、地域の価値を高めることにつながります。

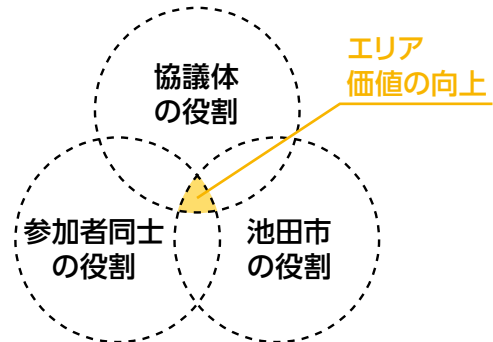
また、持続可能なまちづくりには、使う人の目線と考え、作っていくことが重要です。そのために、まず未来像(ビジョン)を共有した上で体制を作り、空間をデザインし、さまざまな活動を生み出し、

育成・管理していくという方法で取り組みます。

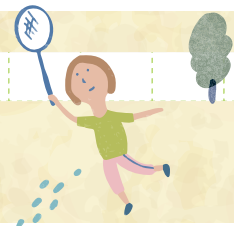


市と参加者をつなぎ、収益を生み、まちに還元する、まちづくりのマネジャーとして運営していく

- ◎公共インフラを活用した収益事業の実施と、まちづくり活動への還元
- ◎大規模事業者によるまちづくりへの投資
- ◎場づくりの調整、参加者の育成



- ◎民間エリア(事業敷地内)での魅力向上事業の実施
- ◎駅前空間の活用・自治運営
- ◎公共エリアにおける広場や道路インフラ整備(公共投資)
- ◎上記インフラの柔軟なルールづくりと運用、規制緩和



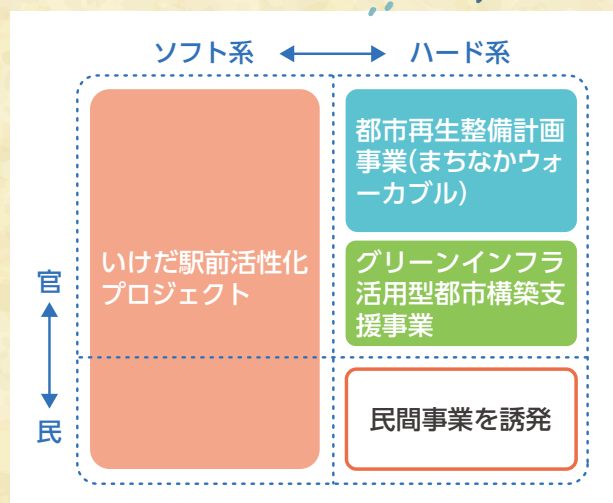
現在進行しているまちづくり事業

本市では、いけだ駅前活性化プロジェクトの他にも、「都市再生整備計画事業(まちなかウォークابل)」「グリーンインフラ活用型都市構築支援事業」などの検討が進められています。

これらは、みどりの機能を生かした歩きたくなる空間づくりのための、主にハード面の整備が中心です。

一方で「いけだ駅前活性化プロジェクト」は、市民の皆さんとまちづくりについて協議する場としてエリアプラットフォームを立ち上げ、にぎわいの創出や地域の魅力向上に取り組むためのソフト面の事業を主としています。

各事業同士で連携し、使う側の視点に立ったソフトとハードの整備を進めていくことで、民間投資を生み出すなど、将来的には駅周辺のエリア価値の向上をめざします。



いけだ駅前活性化プロジェクト進捗レポート

同プロジェクトのメンバーは現在約70人。メンバーとともにコンセプトやルール作りを検討しています。最終的には3つのグループに分け、今年度中に全6回の会議を開催します。その結果を踏まえて、今後イベントを開催予定です。さらに4年度には、「いけだ未来ビジョン」を作成する予定です。

検討会議の概要とスケジュール

| 第1回 | 第2回 | 第3回 | 第4回 | 第5回 | 第6回 |
|--|--|---|--|---|--|
| 3年10月25日 | 11月26日 | 12月13日 | 4年1月24日 | 2月 | 3月 |
| <ul style="list-style-type: none"> 自己紹介 オリエンテーション 地域のいいところを話し合う | <ul style="list-style-type: none"> まちの資源やほしい機能を探す | <ul style="list-style-type: none"> 面白い事例を研究 めざす姿の仮説を立てる | <ul style="list-style-type: none"> まちでやってみたい活動を考案 | <ul style="list-style-type: none"> イベントに向けてグループごとに準備を始める | <ul style="list-style-type: none"> イベントに向けた最終準備 |

検討内容のイメージ

大きな商業施設が並ぶ池田駅前、池田を南北に貫く商店街やさくら通り、そして落語みゆーじあむや呉服座など文化施設が集まる本町通りを軸として、広い範囲での「駅前」として捉えています。これらのエリアで、皆さんの活動や資源をつなぎ、池田に暮らす人・働く人が歩いて楽しむ新しいチャレンジができるまちづくりを考えます。



駅前の活用

てるてる広場やせせらぎモールと商業施設を地上レベルで接続させた空間づくりを、実現したい滞在イメージとともに考える。



ストリートハブ

「さくら通りと本町通りが交差する「ストリートハブ」のあり方を考え、コミュニティセンター用地やポケットパークとの一体的な使い方を考える。



駅前交通のスマート化

駅から五月山に向かう坂道の歩きやすさや、駅前の回遊性向上のため、シェアサイクルなどの都市インフラの導入を考える。

Team A

どのエリアをどのように使いたいか考える。4年度には実際に使い方の社会実験を開催予定。

Team B

せせらぎモールを中心に、実現したい駅前空間を考える。さらに広範囲での商業施設の魅力発信を考える。

Base C

A・Bチームの内容を参考にしながら、駅前にあってほしい「都市のインフラ」を考える。

いけだ未来
ビジョン策定へ



NPO法人トイボックス代表理事
栗田 拓さん

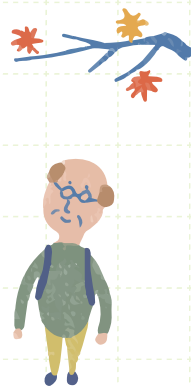
私 たちは自治体と連携しながら「まちがまちの人の力で良くなっていく」ことをテーマに活動しているNPO法人です。池田市では約20年前から活動し、子どもたちや障がいのある方の支援、まちづくりのお手伝いなどを行っています。今回のプロジェクトでは、事業を推進するための多様な人材が集まるエリアプラットフォームの構築と運営を通して、将来像を示した未来ビジョンと実施計画の策定をサポートしていくことが私たちの役割です。

まちづくりの究極的な目的は、「みんなが住みたい」と思えるまちにしておくことだと考えています。地域の人が地域の中で楽しめることが一番大事で、そうした「まちの地力」が

生活している人が楽しめるまちを基本に。

あるからこそ、市外からの来街者も増えていきます。池田市には多様なまちの魅力があります。今回対象になっているエリアだけでも、買い物やグルメが楽しめる池田駅周辺から少し歩くと閑静な住宅街があり、さらに歩くと奥深い自然もあります。まちが多様であることは、五感で感じられる生活の豊かさにつながります。

そこに生活している人が楽しめるまちという視点を見過ぎとして、大規模開発だけに目を向けてしまうと、持続可能なまちづくりになりません。だからこそ市民の皆さんから生活のプロとしての意見を出していただくことが大切だと考えています。平日の夜や休日に意見交換ができる機会もありますし、また4年度にはまちづくりの方向性を示すイベントの開催を予定しています。ぜひ、市民の皆さんの積極的なご参加をお待ちしています。



平日の昼間だと参加できない…。そんな皆さんへ！ いけだ駅前活性化プロジェクトナイトミーティング

同プロジェクトは、平日日中の開催がほとんどです。そこで、仕事などで参加できない方からの意見を募るため、平日の夜や休日に意見交換ができる機会を、市民有志によるまちづくりについて

語る場「まちナイト」と協力して設定します。地域に関わるさまざまな方からの意見を反映した、いけだのまちなかの将来像を描きます。

ぜひご参加ください。



時2月8日(火)午後7時30分から **場**関関COLORS 店舗(サカエマチ商店街内) **申**前日までにWEB申し込みフォームから必要事項を送信 ※オンラインでも視聴可。詳細は市ホームページをご覧ください。



問い合わせは都市政策課 ☎754・6262